

令和6年度 学校教育自己診断（学校評価アンケート）の結果と考察

1. アンケート回答数（回答率）

令和6年11月14日（木）配付

11月22日（金）回収〆切

	在籍	実施日	生徒			保護者			教職員
			2年生	3年生		2年生	3年生		
令和6年度	140人 内訳↓ 2年 78 3年 62	11/14 11/21	140人(100%)			124人(88.6%)			21/22人 (95.5%)
			78 (100%) 長欠 0	62 (100%) 長欠 0		66 (84.6%)	58 (93.5%)		
令和5年度	267人 内訳↓ 1年 89 2年 64 3年 114	11/16	267人(97.3%)			319人(87%)			33/34人 (97%)
			80 (94%) 長欠 4	64 (100%) 長欠 0	112 (98.2%) 長欠 0	64 (76%)	57 (89%)	105 (92%)	
令和4年度	368人 内訳↓ 1年 78 2年 118 3年 172	10/18 10/21	356人(97%)			319人(87%)			29/38人 (76%)
			74 (95%) 長欠 4	117 (99%) 長欠 1	165 (96%) 長欠 5	67 (91%)	108 (92%)	144 (86%)	
令和3年度	521人 内訳↓ 1年 147 2年 181 3年 193	10/21	521人(98%)			440人(84%)			44/44人 (100%)
			139 (95%) 長欠 9	197 (100%) 長欠 0	214 (99%) 長欠 1	116 (83%)	147 (81%)	177 (92%)	
令和2年度	622人 内訳↓ 1年 207 2年 200 3年 215	10/13 10/16	615人(99%)			507人(82%)			46/46人 (100%)
			204 (99%) 長欠 3	197 (99%) 長欠 3	214 (99%) 長欠 1	173 (84%)	163 (82%)	170 (79%)	

2. 考察

集計結果の処理は、肯定的回答（◎○）と否定的回答（△×）に分け百分率で表した。

集計表は過去の肯定的回答との比較を百分率（以下『ポイント』と記述）の増減で表した。

なお、マイナスは数値の前に△を付記する。

また、保護者のアンケートでは「わからない」という回答を設け、その数を引いたものを母数とし肯定的回答と否定的回答の百分率を求めた。

年次別（過去３年間のデータと比較）

生徒

「学校で勉強するのは、大切なことだと思う」「授業でわからないことについて、先生に質問できている」「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」「選択科目などの興味関心に応じた授業がある」「実習実験による体験授業が行われている」の項目において過去３年間のポイント平均と比較して３ポイントを超える上昇がみられる。朝学習による学習習慣や少人数での授業展開がポイントに反映されていると考えられる。

「学校は国際理解教育を積極的に行っている」「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」の項目において過去３年間のポイント平均と比較して５ポイント以上の上昇がみられることから、総合的な探究の時間等を利用した学習に成果をみることができる。

「部活動は盛んである」は１ポイント以上低下しているが、「文化祭など、学校行事に主体的に関わりたいと思っている」については上昇しているため、授業外での生徒の活躍の場を来年度も引き続き確保していく必要がある。

保護者

「子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」「学校は、子どもたちの将来や職業について適切に指導している」「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目において過去３年間のポイント平均と比較して５～１０ポイントの上昇がみられた。保護者説明会や三者懇談、保護者連絡などを通じて、教育活動について保護者への理解と協力がすすめられた結果がポイントに反映されたと考えられる。

「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」「子どもは、文化祭等の学校行事に主体的に関わりたいと思っている」「授業参観、学校行事、PTA 活動に積極的に参加している」の項目において過去３年間のポイント平均と比較して５～１０ポイントの上昇がみられた。生徒数が減少しながらも体育大会や文化祭を工夫して実施した結果がポイントに反映されていると考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の収束により、保護者の学校行事招待がすすめられた結果、生徒の活躍を見られる保護者が増えたこともポイントに反映されたと考えられる。

教職員

「各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している」「会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている」の項目がともに 71.4 と過去のポイント平均と比較して低下がみられる。一方で「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目において過去のポイントと比較して 76.2 と、10 ポイント以上の上昇がみられる。教職員の人数減少により、会議が意見交換や意思決定の場としての機能が低下しているとも考えられる。会議の在り方については来年度検討の必要がある。

「情報提供の手段として、学校のホームページやまちこみメールが活用されている」の項目において過去３年間のポイント平均と比較して５ポイント以上の上昇がみられ 95.2 ポイントとなった。しかし、保護者への質問項目「学校のホームページやまちこみメールを利用している」については 61.7 と過去３年間で比較しても毎年ポイントが低下し続けている。ホームページやまちこみの投稿件数は昨年度より増加しているため、保護者に対するホームページやまちこみメールの利用促進周知が必要になると考えられる。

学年別（全体値との比較）

2年生（生徒）

多くの項目で全体の平均値より低い、全体の数値自体はそこまで低いものではなく、47期生（3年生）の評価が全体的に高い為、その差が出ている項目が多い。

「授業でわからないことについて、先生に質問できている」の項目が平均値より7.2ポイント低く、全体の数値の中でも「部活動は盛んである」に次いで最も低い数値となっている。一方、「授業はわかりやすい」「学校で勉強するのは大切なことだと思う」の数値は全体平均より高く、授業に前向きな生徒が多いように思われる。生徒が苦手な部分、わからない部分に寄り添い、質問の機会やコミュニケーションを多く取り入れることにより、より学力の充実が図れるのではないかと考える。

2年生（保護者）

「学校のホームページやまちこみメールを利用している」「教職員は生徒の能力や努力を適切に評価している」「学校は生活指導をきっちり行っている」「学校行事は子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」など多くの項目で全体より高い数値になっている。学校からの発信に興味を持ってくれており、学校や教員への信頼度が高いことが伺える。

3年生（生徒）

多くの項目で全体平均値より高く、数値自体も非常に高い項目が多い。

「授業でわからないことについて、先生に質問できる」「先生は生徒の能力や努力を適切に評価している」「学校は生活指導をきっちり行っている」「学校生活について先生の指導を理解できる」「わたしたちの悩み（いじめ）や相談に親身になって応じてくれる先生がいる」「成績などの個人情報を守られている」の項目が全体値よりポイントが高い。学校や教員への信頼度が高いことが伺える。

3年生（保護者）

多くの項目で全体平均値より低い。

「学校のホームページやまちこみメールを利用している」「学校行事は子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」「学校は教育方針や教育情報等をわかりやすく伝えている」等の項目の数値が低い点から、学校からの発信がうまく伝わっていない可能性が高く、保護者への情報発信に課題があると考えられる。

2年生の年度別変化（各年度との比較）

2年生（生徒）

昨年度から下がり続けている項目を除いて、新たに 10 項目でポイントが低下した。特に低下が著しいのは「学校に行くのは楽しい」、「先生は生徒の能力や努力を適切に評価している」であった。低下し続けているのは、「授業でわからないことについて、先生に質問できている」、「部活動は盛んである」についてであった。学年の動きとして、人間関係のトラブルが増加傾向であったこと、相手の表現を正しく理解できていないことや幼さが影響しているのではないかと推察される。

一方、「授業はわかりやすい」、「学校では、将来の進路や職業について適切な指導が受けられる」について、昨年度は低下傾向であったが今回上昇した。今後もできる限り個に応じた対応を心がけていく必要がある。

2年生（保護者）

昨年度、11 項目でポイントが低下していたが、今回は「部活動は盛んである」の 1 項目のみの低下で、他は全て上昇した。活動している部活動はあるものの、校内全体で部員、部活数が減少していることが影響している。今後、この項目の上昇は困難であるが、現在も活動している部活動はあるため、校内外の活動を顧問だけでなく職員全体で支えていきたいと考える。

今回特に上昇が著しかったのは、「学校は、選択科目などの興味関心に応じた授業がある」、「学校行事は、子どもたちに達成感や自主性をもたせるよう工夫されている」、「学校の施設、設備についてほぼ満足できる」であった。希望調査を取った結果をそのまま反映できていること、学校行事の内容を少しずつ変えてきたこと、複数ロッカーが使用できるなど、少人数のため成り立っていることが影響したのではないかと推察される。

3年生の年度別変化（各年度との比較）

生徒

大多数の項目で、昨年度からのポイント上昇が見られた。その中でも特に、令和 2 年度から今年度にかけて徐々に上昇している項目に注目したい。「実習実験による体験授業が行われている」は 4 年間で 26.4 ポイント、「学校では人間関係や人権について学ぶ機会がある」は 4 年間で 16.6 ポイント上昇している。時代とともに変化するカリキュラムや、人間関係の築き方に合わせた学習活動ができており、おおむね生徒にも伝わっていると見て取れる。

昨年度からポイントが低下している項目は「全校朝礼や学年集会は学校生活において自分のためになっている」と「部活動は盛んである」の 2 つのみであった。この項目に関しては、実際問題全校朝礼と部活動が減っているため、妥当であると考ええる。

年度別変化のため回答者自体は違うものの、授業での端末の活用や体験活動などの工夫が、数値となって表れていると感じた。

保護者

生徒の変化と違い、保護者は昨年度とばらつきが見られた。

昨年度からのポイント上昇が一番大きかった項目は「子どもの悩み（いじめなど）や相談に親身になって応じてくれる先生（教職員）がいる」であり、21.6 ポイントの上昇であった。ポイント上昇は生徒のために良いことではある一方で、「悩みや相談事がある」という生徒が大幅に増えているが故の上昇ではないかとも考える。

昨年度からのポイント低下が一番大きかった項目は「学校には、選択科目などの興味関心に応じた授業がある」であり、21.1 ポイントの低下であった。新カリキュラムへ移行して初めての学年であり、選択の種類に大きく変化があった。そのため、ポイント低下は妥当なものであり、生徒ではなく保護者のアンケートで数値として現れたのは授業に対しての関心が見て取れ、このデータは収穫であると考ええる。

現3年生（47期生）の経年変化（過去2年間のデータと比較）

3年生（生徒）

「授業でわからないことについて、先生に質問できている」の項目については昨年度から13.4ポイントも上昇している。3年生ということもあり、教員との関係が築かれてきたことを反映していると考え。また、「授業がわかりやすい」という項目や、「先生はプロジェクターや1人1台端末を活用するなど、教え方を工夫している」の項目についてのポイントも高いことから各授業では様々な工夫がなされ、生徒にもその方法はなじんでいると考える。また「選択科目などの興味関心に応じた授業がある」という項目も7.5ポイントの上昇がみられた。

「学校は生活指導をきっちり行っている」という項目は3年間を通して高いポイントを保っており、「学校生活について先生の指導を理解できる」の項目は昨年度より9.4ポイントも上昇している。生徒は指導について理解をし、学校生活を送っていると考え。

「学校では、将来の進路や職業について適切な指導を受けられる」という項目も7.7ポイント上昇しており、3年生に向け進路関係の様々な指導を行ってきていることが反映されている。

3年生（保護者）

「子どもは、「授業がわかりやすい」と言っている」の項目は3年間で1番低く、1年生の時より20.6ポイントの低下が見られる。生徒のアンケートでは82.3ポイントと高い評価であったが保護者と生徒の認識に大きな差があることが見受けられる。「学校には、選択科目などの興味関心に応じた授業がある」という項目も同様に48.8ポイントと低いが生徒の評価は高くなっている。生徒と保護者間での情報共有の在り方が学年と共に変化をしてきているように感じる。

学校は生活指導をきっちり行っているという項目については1年生の時より、やや低下しているものの74.5ポイントと比較的高い評価を得ており、学校の指導については生徒・保護者ともに肯定的にとらえられているようだ。

現2年生（48期生）の経年変化（過去1年間のデータと比較）

2年生（生徒）

全体で22項目のうち12項目でポイントが低下した。最も低下したのは「部活動は盛んである」の項目で、24.2ポイント低下した。全体の生徒数が減少しているため、部活動に属している生徒、部活動数の減少が影響していると考えられる。今後も厳しい結果になることが予想される。次に低下が目立ったのが「少人数によるきめ細やかな指導が行われている」で9.2ポイント低下した。昨年より、少人数展開の授業自体が減っていることや、学習の達成度に差が出てきているのではないかと推察される。

今回上昇が著しかったのは「選択科目などの興味関心に応じた授業がある」、「実習実験による体験授業が行われている」の2項目で13ポイント以上の上昇を示した。少人数であるため、選択科目の希望調査がそのまま反映できることや、少人数で実習実験が行えるからではないかと考える。

2年生（保護者）

全体5項目で低下を示し、最も低下したのは「PTA活動は盛んである」の項目で、15.1ポイント低下した。活動内容は変わっていないが、ここ数年のPTA役員の減少が影響していると考えられる。それでも保護者全体のポイントより、4.3ポイント上昇していた。次に低下したのは「部活動は盛んである」の項目で、13.8ポイント低下した。原因は上記生徒の項目で記した内容と同様であると考え。

今回、最も上昇したのは「子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の項目で、22.6ポイント上昇した。同じ項目で生徒は4.5ポイントの上昇であったことから、人間関係のトラブルや、交友関係の悩み、成績だけでなく、日常の学校生活で起きた些細なことでも保護者と連絡を取り合ってきた担任団の成果ではないかと考える。

最後に

全体として昨年度より概ね数値が上昇した。また、過去３年と比較しても、美原高校全体の数値が順調に上昇していることがよく分かる。これは、数年における授業改善・生活指導・進路指導等の校内研修や日々の教職員の研鑽の賜物であると考えられる。

今年度は基礎学力の向上をめざした朝学習を導入したり、総合的な探究の時間も充実させたり生徒の学習に関する動きが多くあり、その関係の数値が過去３年より大きく上昇した。

また、生徒数が減少している中で、学校行事の充実や保護者対応を丁寧におこなった結果も反映され、昨年度より保護者の数値も上昇した。

今回のアンケート結果をもとに、生徒や保護者、教職員が安心して学校生活を送れるよう、また魅力的な学校となるように、検討を重ね、今後の教育活動につなげていきたい。